

京 都 大 学

医療技術短期大学部紀要

第11号

1991年

目 次

総 説

松永 正人: レニン・アンギオテンシン系の現代像 1

原 著

川井 浩, 近田 敬子, 田畑 勝好, 森永 敏博, 木村 信子, 菅沼 美奈子,
福崎 哲: 医療技術系高等教育機関における教育と研究の調査研究 15

ASANO, K., NAKAMURA, M. and ASANO, A.: A Simple Method for
Measurement of Mitochondrial DNA Content in Total Cell DNA
Using Non-radioactive DNA Probes 27

森永 敏博, 黒木 裕士, 鈴木 康三, 濱 弘道: スポーツによる足関節靭帯
損傷とリハビリテーション 39

浅川 康吉, 遠藤 文雄, 亀田 実, 磯部 啓子, 森永 敏博: 運動処方
における目標心拍数の精度について 49

足利 善男, 石川 俊紀, 火箱 保之, 増田 洋, 川井 浩: HST 変法による
心拍数・最高血圧の変化 55

藤原 陽子, 内田 宏美, 藤川 朋子, 中井 則子, 菅辺 あゆみ, 福岡 せつ子,
近田 敬子: 術後の清潔ケアを清拭からシャワー浴に変えてみて 63

神原 啓文, 中井 依砂子, 安田 佳代: 突然死の発生状況について—20年間の
新聞報告に基づく調査 71

投稿規定 79

編集後記

京大医短部紀要

ISSN
0286-7850

投 稿 規 定 (平成元年9月20日改定)

と稿: 投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員(元教職員を含む)が著者、または共著者であるものに限る。

論文の受付: 原稿(表紙、本文、図、表など)はコピー2部を添え(計3部)、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付けおよび全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

原稿の書き方: 原稿は、次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙(原稿第一枚目)の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に*、**……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録(20行、または200 words程度)およびKey words(8語以内)をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。

3. 欧文原稿および英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快地理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き(論文の内容上とくに必要な場合は縦書き)原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞(人名など)は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。度量衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言(Introduction)材料(Materials)、方法(Methods)、結果(Results)、考察(Discussion)などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

1., 2. ……行の第1字目に記す。

1), 2) ……行の第2字目に記す。

5. 図(Figure)および表(Table)には、それぞれ別の通し番号をつける。図版(Plate)や写真(原則として白黒)は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は(14×20 cm)以内にまとめる。図は台紙(20×26 cm以下)に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。

7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を¹⁾, ^{1,3,6)}, ²⁻⁵⁾のように記す。

雑誌の場合

著者名(6名以下の場合)は全著者名、7名以上の場合)は最初の3名を記し、“他”または“et al”をつける)、表題、掲載誌名、発行年(西暦)、巻数(必要であれば号数)、頁数(始—終)の順に記す。雑誌略名は、日本医学雑誌略年表(日本医学図書館協会編)およびIndex Medicusに従う。

<例>

- 1) Sakaguchi K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959; 10: 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子: 性周期記録表の試み, 母性衛生 1978; 19: 76-82

単行本の場合

著者名(雑誌の場合と同様), 表題, 編者名, 書名, 版数, 発行地, 発行書, 発行年(西暦), 引用頁(始一終)または(1~終頁)の順に記す。なお著者と編者が同一の場合には, 著者名, 書名の順とする。

<例>

- 1) Wintrobe MM: Clinical Hematology: The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia, Lea and Febiger, 1974: 80-220
- 2) Spiwartz TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205

- 3) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈, アミラーゼ. 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎編, 検査診断マニュアル, 第1版. 東京: メヂカルフレンド社, 1978: 96-99
- 4) 城戸幡太郎: 文化心理学の探求. 東京: 国土社, 1970: 1~390
- 5) Pedritti LW: 身体障害の作業療法(小川恵子, 山口昇, 青木真由美訳). 東京: 協同医書出版社, 1985: 103-115

原稿の枚数: 原著論文, 総説は原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内, 学会・研究会の抄録などは同じく半頁以下とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13 cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。

校正: 著者による校正は, 再校までとし校正時における内容の変更や追加は認めない。

印刷費: 原価の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費は著者の負担とする。

別刷: 印刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

編集後記

紀要11号をお届けいたします。十年一昔と申しますが、私たちの紀要が創刊されて以来、いま、二度目の十年という一区切りに足を踏み入れました。前方にのび広がっている新たな一区切りの道のりを思い描いて、この学術誌が着実に歩を進めることをねがい、またその実現のために努力してゆきたいと思えます。

ふりかえれば、短大創設にともなう様々な問題を乗り越えて、創設以来のねがいであった紀要の創刊にこぎつけたのは、設立後6年を経た1981年でした。そのときの気概は並々ならぬものであり、喜びもまた、ひとしおであったことを、いま、思い出します。そして、以来10年間にわたるたゆまぬ研究への意欲と、それを紀要という形にして表わしたいという熱意が第11号の刊行をうながしたのであります。

第11号には8編の論文が掲載されています。今年4月1日をもって本短期大学部を退職されました松永正人名誉教授からは、長年にわたるご研究に関連してまとめられた総説を寄せて頂きました。また、学内から寄せられた7編の論文も、それぞれの分野での研究において努力された成果であります。これらの研究はこれがゴールではなく、さらなる発展への道を開くものでありましょう。そのような意味でもまた、この紀要というささやかな核が果たす役割は大きいと思われます。平成元年から出版されている別冊「健康人間学」の歩みも順調で、すでに第3号(1991)が刊行されております。

私たちの医療技術短期大学部を機能させている働きのひとつとしてのこの紀要を、今後ますます育ててゆきたいとねがっております。

1991年9月

| | | | |
|---------|---------|---------------------|--|
| 紀要編集委員長 | 加 茂 映 子 | | |
| 編集委員 | 浅 野 仁 子 | 池 本 正 生 | |
| | 木 村 信 子 | 熊 谷 俊 一 | |
| | 松 本 雅 彦 | 三 井 政 子 | |
| | 野 村 蟻 | 大 塚 研 一 | |
| | 鈴 木 康 三 | 内 田 耕 太 郎 (A B C 順) | |

京都大学医療技術短期大学部紀要 第11号

Annual Reports of the College of Medical
Technology, Kyoto University No. 11

平成3年11月25日印刷・発行

印 刷 共 同 印 刷 工 業 株 式 会 社
京都市右京区西院久田町78
発 行 京 都 大 学 医 療 技 術 短 期 大 学 部
京都市左京区聖護院川原町53

ANNUAL REPORTS
OF
THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY,
KYOTO UNIVERSITY

No. 11

1991

CONTENTS

Review

Matsunaga, M. : Modern Concepts of Renin-Angiotensin System 1

Originals

Kawai, H., Chikata, K., Tabata, M., Morinaga, T., Kimura, N.,
Suganuma, M. and Fukuzaki, S. : A Report of Education
and Research of Colleges for Allied Health Sciences15

Asano, K., Nakamura, M. and Asano, A. : A Simple Method for
Measurement of Mitochondrial DNA Content in Total Cell DNA
Using Non-radioactive DNA Probes27

Morinaga, T., Kuroki, H., Suzuki, K. and Hama, H. : Rehabilitation
for Injuries of Lateral Ligament of the Ankle Joint Induced by
Sports Activities39

Asakawa, Y., Endo, F., Kameda, M., Isobe, K. and Morinaga, T. :
Accuracy of Target Heart Rate on Exercise Prescription49

Ashikaga, Y., Ishikawa, T., Hibako, Y., Masuda, H. and Kawai, H. :
Effects of Modified Harvard Step Test on Heart Rate and Systolic
Blood Pressure55

Fujiwara, Y., Uchida, H., Fujikawa, T., Nakai, N., Sugabe, A., Fukuoka, S.
and Chikata, K. : Warm Shower for Patients with Operative Wounds63

Kambara, H., Nakai, I. and Yasuda, K. : Sudden Death and its Circumstances :
20-Year Retrospective Study of Newspaper Accounts71

Instructions to Authors79

Editorial Notes

Ann. Rep.
Col. Med. Tech.,
Kyoto Univ.

ISSN
0286-7850